

## 済生会今治病院を受診された方およびそのご家族の方へ

当院では臨床研究の実施をしております。

本研究の対象者に該当する可能性がある方で診療情報等を研究目的で利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

同意をされない場合でも、いかなる不利益を生じることはございません。

対象となる方	2012年1月1日～2020年12月31日の期間中、当院の呼吸器外科で、肺癌に対し肺切除術を受けられた患者さんのうち、腫瘍が肺門にあり、肺全摘術または肺動脈形成術を伴う肺切除術を行った患者様
研究課題名	肺門型の左上葉肺癌に対する、肺動脈形成を伴う肺葉切除術と肺全摘術の手術成績と予後に関する検討（多施設共同後方視的研究）
当院研究責任者	松田 英祐（呼吸器外科・部長）
本研究の目的	<p>肺癌に対する治療方法のうち、外科的切除は今なお重要な選択肢です。肺動脈形成を伴う肺葉切除術は、肺全摘を回避しうる術式として周術期合併症や予後を中心に比較検討されてきましたが、これまでに少数の報告があるのみで、その意義は未だ十分に確立されたとは言えません。超高齢社会の現在、低肺機能患者に対する手術の機会が増加しており、肺動脈形成の必要性は以前よりも高まっていると考えられます。さらに、肺動脈形成を要する肺癌は肺門型で進行癌の症例が多く、手術手技や集学的治療が進歩している現在、再度その術式を適切に評価し施行する必要があると考えました。</p> <p>そこで、肺動脈形成を伴う肺葉切除術と、肺全摘術を施行された症例群における周術期合併症の内容・頻度ならびに予後を比較し、肺動脈形成の意義を明らかにします。</p>
研究の方法 (使用する試料等)	<p>対象期間中、肺癌に対し肺切除手術を受けられた患者さんで、研究者が診療情報をもとに手術に関する内容および術後経過、合併症、生存情報、各種検査のデータを集めます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 年齢、性別、身長、体重、既往歴、喫煙歴</li><li>・ 診察所見、治療内容、術後経過、合併症、予後情報（再発の有無や肺癌手術日からの生存期間）、血液検査・画像診断（X線、CT、PET/CT、MRI）・生理学的検査（心電図・肺機能検査）・病理学検査</li></ul>
研究の実施期間	倫理委員会承認日～2025年3月31日

作成日：2021年2月2日

第1版作成

個人情報の取扱い	<p>研究に用いる資料として、カルテから情報を抽出し使用させていただきますが、患者さんの個人情報は削除の上匿名化し、個人情報などが漏洩しないよう細心の注意を払います。</p> <p>電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピュータに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。</p>
お問合せ先	<p>呼吸器外科 松田 英祐</p> <p>電話番号：0898-47-2500(代表) 平日9：00～17：00</p>
備考	<p>お問合せは2021年3月31日までをお願いします。</p>